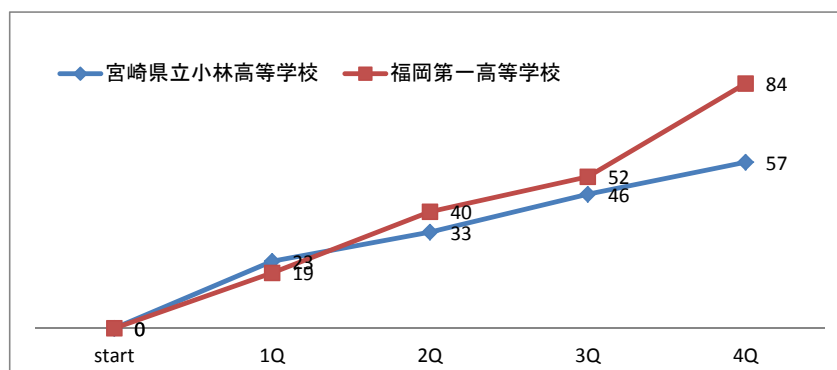


# 平成25年度 全九州高等学校体育大会 第66回 全九州高等学校バスケットボール競技大会 男子の部

男子準決勝	宮崎県立小林高等学校	57	<table border="1"> <tr><td>23</td><td>-</td><td>19</td></tr> <tr><td>10</td><td>-</td><td>21</td></tr> <tr><td>13</td><td>-</td><td>12</td></tr> <tr><td>11</td><td>-</td><td>32</td></tr> <tr><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </table>	23	-	19	10	-	21	13	-	12	11	-	32	-	-	-	84	福岡第一高等学校
23	-	19																		
10	-	21																		
13	-	12																		
11	-	32																		
-	-	-																		
主審 川原 禎仁	(宮崎県2位)	●		○	(福岡県2位)															
第1副審 紀伊 孝哉																				
第2副審 森田 将史																				

No. 23b2 日時: 2013年6月23日(日) 9:00 会場: 宮崎県体育館



## 宮崎県立小林高等学校

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 岩松 永太郎	10	0	5	0	4
5	* 畠中 康希	7	0	3	1	3
6	宮崎 祐輔	0	0	0	0	0
7	黒木 靖大	-	-	-	-	-
8	* 島元 滉平	13	3	2	0	5
9	* 黒岩 郁弥	8	0	4	0	3
10	村角 健陽	-	-	-	-	-
11	斉藤 大介	2	0	1	0	1
12	蔵満 恭助	2	0	1	0	0
13	高田 宝聖	0	0	0	0	2
14	* 濱砂 賢人	9	1	3	0	0
15	高山 寛史	6	0	3	0	2
コーチ	石川 祐二					
合計		57	4	22	1	20

## 福岡第一高等学校

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 田口 航	18	0	6	6	0
5	* 奥野 功知	1	0	0	1	0
6	* 時田 康佑	13	3	2	0	0
7	* 大坪 真吾	4	0	2	0	2
8	濱田 健太	4	0	2	0	0
9	三枝 幹司	3	1	0	0	1
10	イルバジ・ニヤン	5	0	2	1	0
11	秋山 皓太	10	3	0	1	0
12	* 張 効広	20	0	8	4	3
13	城間 建伍	0	0	0	0	0
14	井手 優希	0	0	0	0	0
15	河野 佑太	6	0	1	4	1
コーチ	井手口 孝					
合計		84	7	23	17	7

\*…スターター (O)…キャプテン 3P…3点シュート 2P…2点シュート FT…フリースロー F…ファウル

## 戦評

男子 B コート準決勝は福岡県代表の福岡第一と宮崎県代表の小林の対戦となった。両チーム共に県予選2位通過ではあるが、躍動感のあるバスケットでベスト4まで勝ち上がってきた。今大会屈指の好ゲームは高さの利を活かした福岡第一が落ち着いてオフェンスを展開し、決勝戦に駒を進めることとなった。

第1ピリオド、福岡第一はハーフコートマンツーマン、小林はオールコートマンツーマンを基本として#14が福岡第一#5をフェイスガード。開始4分、小林はリバウンドから速攻につなげ9-4とリードを広げる。福岡第一は#12から#10にメンバーチェンジし高さで対抗する。ハーフコートで落ち着いて得点する福岡第一と速攻を中心に得点する小林、2-3-1 9小林リードで第1ピリオド終了。第2ピリオドは福岡第一は3-2ゾーンDefにチェンジ、開始1分、パスミスをした小林はすかさずタイムアウトを請求。開始2分、福岡第一は#11の3Pで25-26と逆転に成功。ゾーンDefに攻めあぐむ小林はシュートを決めることができない。残り2分、ルーズボールをものにした小林は#5の速攻で32-29と点差を3点差に縮め、ここで福岡第一のタイムアウト。その後福岡第一は#9の3Pで差を広げ33-40福岡第一リードで前半終了。第3ピリオドは福岡第一2-3ゾーンDef、小林はマンツーマンでスタート。小林は#14が相手#5を徹底してフェイスガードを続ける。開始2分福岡第一は連続してシュートを決め9点の差を広げ、小林はタイムアウト。その後小林は2-3ゾーンDefとマンツーマンを織り交ぜながら展開していく。福岡第一はリバウンドで優位に立ち#12のゴール下で得点を重ねる。対する小林はルーズボールからの速攻や#4の連続得点で息を吹き返し点差を縮める。46-52福岡第一リードで第3ピリオド終了。第4ピリオド開始直後、福岡第一が高さの利を活かし#12、#7がゴール下で連続得点し47-61と点差を広げる。ファウルが増えてきた小林は残り7分でタイムアウト。福岡第一は落ち着いてノーマークを作り積極的にジャンプシュートで加点、対する小林は相手の厳しいDefに苦しみ得点を伸ばすことができない。試合は第4ピリオドで堅いDefとインサイドを支配した福岡第一が逃げ切り57-84で試合終了。

記載者

大江 一成・井谷 公哉